

めがね／眼鏡／メガネの表記感

——各表記のイメージに関するアンケート調査結果から——

増 地 ひ と み

1. はじめに

現代日本語の書き言葉においては、主に4種類の文字種（漢字・ひらがな・カタカナ・Alphabet）を使用する。各々の文字種は、どのような語を表記するかという点で大まかな役割を持っており、日本語使用者の間で共有されている。例えば語種との対応で、漢字とひらがなはいずれも漢語・和語を表記するのに用いられ、カタカナは外来語を表記するのに用いられるなどである。しかし、その大まかな役割を外れた用法も観察される。その一つに、外来語以外がカタカナで表記される例（以下「非外来語のカタカナ表記」）がある。例えば漢語である「簡単」を【カンタン】⁽¹⁾と表記したり、和語である「君」を【キミ】と表記したりするものを指す。これらは「非標準的なカタカナ表記」などとも呼ばれ、そのような表記がなされる要因が先行研究において考察されてきた⁽²⁾。そして、このような非外来語のカタカナ表記の出現には、コミュニケーションがなされる場や人間関係、つまりコンテキストが要因の一つとなって影響を与えていることが明らかになっている⁽³⁾。

一方で、コンテキストの影響を受けずにカタカナで表記される非外来語も存在する。すなわち、「改まった場でもカジュアルな場でも、場を選ばずにカタカナ表記が使用される非外来語」である。筆者は増地（2018）において、それに該当するカタカナ表記語を学術雑誌から抽出した。例えば、【カタカナ】【ケガ】【ズレ】【セリフ】【マンガ】【メガネ】などである。これらはコンテキストに関係なく、つまり【キミ】などとは異なり、改まった文章においてもカタカナ表記が用いられる語群ということになる。

しかし、ここで注意が必要なのは、語を表記する文字種が異なると、「表記感」（笹原宏之 2011、p.61・216）つまり表記がもたらす語のイメージも異なる可能性があるという点である。コンテキストに関係なくカタカナ表記される語であるということは、あらゆるコンテキストにおいて漢字・ひらがな・カタカナのいずれの文字種によっても書かれうることを意味する。上述した各々の語をどの文字種で表記するにしても、受け手がそれらの表記からいだけ表記感を把握しておく必要があるであろう。さらには、もし異なる文字種で表記されることで「意味の独立」（生熊愛2009）が生じるのであれば、それらは別語、つまり「同音訓・異表記・異義語」⁽⁴⁾と認定すべきものとなる。そこで、本稿では対象を「めがね」に絞り、アンケート調査によって【めがね】【眼鏡】【メガネ】各々における表記感を明らかにする⁽⁵⁾。そして、

各々に意味の違いが認められるか、つまり各々は別語と認定されうるものか否かを検討する。

2. 先行研究と本稿の位置づけ

一つの語が漢字・ひらがな・カタカナという異なる文字種で表記されることに着目した研究に、浮田潤他(1996)の「主観的表記頻度」の調査がある。浮田他(1996)は、漢字・ひらがな・カタカナいずれでも表記可能な750の名詞を調査対象として、どの表記を日常生活においてよく目にするかを主観的に評定した人数の割合(主観的表記頻度)を示した。また、漢字・ひらがな・カタカナ各々の表記形態と、単語のイメージの鮮明さ、つまりイメージしやすさとの関係を探る杉島一郎他(1997)の論考もある。しかし、浮田他(1996)、杉島他(1997)はいずれも、一つの語が漢字・ひらがな・カタカナで表記されたそれぞれの用例から受け手がいざいイメージを具体的に明らかにしたものではない。

異なる文字種で表記された一つの語に対するイメージや意味の違いを調査した研究には、李曉娜(2010)がある。李(2010)は、【切れる】と【キレル】各々から想起される言葉や表現の調査を行い、両者のイメージと意味範囲について考察した論考である。そこでは、【切れる】【キレル】には各々がカバーする独立した意味範囲が存在するが、互いに重なり合っている部分もあるとの結果が示されている。李(2010)では明言されていないが、その調査結果を踏まえると、【切れる】と【キレル】は李の調査時(2006年から2007年にかけて)においては別語とまでは認定できない状況であったと推測される。

カタカナ表記されることで意味が限定される動詞の具体例は、生熊(2009)が提示している。生熊(2009)は、雑誌から収集した実例を意味分類した結果と、それを検証するためのアンケート調査結果とを踏まえた論考であり、【行ける】と【イける】においては「意味の独立が成立している」との考察がなされている(p.41)。これが、本稿で言うところの「同音訓・異表記・異義語」と呼ぶべき語の例である。本稿で「表記感の違い」を検証した上で検討するのも、「視力を調整・矯正するための器具」という辞書的な「めがね」の意味の変化、あるいは特定の意味範囲を分け持つ別語としての独立が、【めがね】【眼鏡】【メガネ】各々において見られるか否か、つまり「同音訓・異表記・異義語」となるのか否か、という点である。

先述したように、増地(2018)においてはコンテキストに関わりなくカタカナ表記が使用される非外来語をいくつか示した。「めがね」はその一つであり、老若男女問わずなじみの深い語でもある。コンテキストに関わらず使用できる語であるからこそ、その表記を選択することで受け手にどのようなイメージをもたらす可能性があるのか、また、表記の違いが意味の違いにつながるのか否かを把握しておく必要があるであろう。なお、【めがね】【眼鏡】のもたらすイメージについて、秋山ちえ子氏による文章が林巨樹(1982)において引用されていたので紹介しておく(p.182)。秋山氏は、カタカナ表記の【メガネ】には言及していないようである。

「めがね」と平がなで書くと、耳にかける片方のつるが紐で、鼻めがねにして葉書や手紙を読んでいたおばあさん。自慢のロイドめがねをかけると元気づいて、声を出し節をつけて新聞を読んでいたおじいさんの姿が浮んでくる。私にとって「めがね」は漢字の「眼鏡」より平がなのほうがびたりとくる。「眼鏡」とかくと、ツンとすましたインテリ女史を思ってしまう。(秋山ちえ子「めがね道楽」週刊朝日、昭和56年8月21日号 広告欄)

今日の日本語使用者は、【めがね】【眼鏡】【メガネ】各々の表記にどのような表記感をいさぐのであろうか。本稿では、次の3つの問いに答え、その上で【めがね】【眼鏡】【メガネ】の各々が別語と認定されうるかどうかを検討する。

RQ1. 現在の日本語使用者は、各表記からどのようなイメージを連想するのか。

RQ2. 各表記と強い関連のあるイメージは存在するか。存在するならば、どのようなイメージか。

RQ3. 各表記のイメージに個人差はあるか。

3. 【めがね】【眼鏡】【メガネ】のイメージに関する調査概要

アンケート調査の概要は以下のとおりである⁽⁶⁾。

- ・実施時期：2018年7～10月
- ・調査協力者：愛知淑徳大学学部生209名、および社会人41名 計250名⁽⁷⁾
- ・教室にて質問紙を配付、あるいは個別に質問紙を渡し、手書きで回答してもらった。本稿で示す調査は、全体で21問のアンケートの19問目である⁽⁸⁾。

調査協力者の属性は表1のとおりである。年齢は、学部生は全員が10代または20代である。社会人は20代から50代の幅がある（20代：6名、30代：21名、40代：7名、50代：7名）。

表1 調査協力者の属性

		学部生	社会人	合計
性別	男	54	8	62
	女	155	33	188
合計		209	41	250

設問は表2のとおりである。予備調査の結果、語の「めがね」を単独で提示しても回答者はそれを装着している人間を想起する傾向が認められたため、設問は「めがねをかけた人」とした。

表2 【めがね】【眼鏡】【メガネ】に関するアンケートの質問項目

Q19. それぞれの「人」について、どのような人をイメージしますか。	
①めがねをかけた人	②眼鏡をかけた人
③メガネをかけた人	
回答欄	
①めがねをかけた人 ()
②眼鏡をかけた人 ()
③メガネをかけた人 ()

以下では、先に示した3つの問い（RQ1～3）に対応する調査結果を見ていく。回答内容を引用する際は〈 〉でくくり、原文のまま示す。

3.1 現在の日本語使用者は、各表記からどのようなイメージを連想するのか（RQ1）

まず回答者ごとに記述内容を確認したところ、①②③は同じイメージであるとした回答者が250名中16名（6.4%）存在した。うち10名の回答には具体的なイメージの記述がなく、「めがねをかけている人」4名⁹⁾、〈言葉のまま〉2名、〈どれもイメージに差はない。〉〈特に、特定の人（イメージ）は思いつきません。〉〈なんとも思わない〉〈わからん〉各1名であった。具体的なイメージの記述があった6名の回答は、〈誠実〉〈ガリ勉〉〈知的な人〉〈真面目〉〈まじめな人〉〈学生のようなまじめそうな人〉である。

以下、回答欄①②③それぞれにおける自由記述に関して見ていく。User Local社のテキストマイニングツール¹⁰⁾を用いて自由記述を解析した。結果の一部を表3・4・5に示す。表3・4・5の語は、以下のように処理してある。

- ・解析後に、文字種や送り仮名の有無による表記のゆれは①②③をまたいで統一した。【オシャレ】【お洒落】⇒【おしゃれ】に、【年寄り】【年寄】⇒【年寄り】に統一するなどである。ただし、「めがね」については、①②③それぞれにおいて【めがね】【眼鏡】【メガネ】に統一した。
- ・「年寄り」「老人」など、類義語であっても語が異なる場合は統一していない。また、「かわいい」と「かわいらしい」、「外人」と「外国人」など、同義と判定できる語であって語形が異なるものも統一していない。
- ・例えば【めがね】では「小さい子」と「小さい」が、【メガネ】では「若い人」と「若い」が別語として抽出されている。このような例は、ツールの解析結果をそのまま提示した。
- ・回答を記述するための語である「イメージ」は①②③いずれにおいても一定数出現したが、ここでは省いた。動詞についても、全体数が少ない上に「かける」などイメージとは関連のない語がほとんどであったため、省いた。

【めがね】では、表3に挙げた語以外に、1回ずつ出現した名詞として「幼児」「お子さん」「少女」「10代」「中学生」「大学生」「中年」「おじさん」「受付嬢」「溫和」「知的」「素朴」「全

表3 自由記述【めがね】

名詞		名詞	
語	出現数	語	出現数
めがね	47	雰囲気	2
子ども	46	老人	2
普通	20	男の子	2
おしゃれ	11		
真面目	11		
丸めがね	11	形容詞	
印象	7	語	出現数
のび太	6	優しい	32
小学生	6	悪い	15
一般的	4	丸い	10
女性	3	かわいい	7
女の子	3	柔らかい	7
若い人	3	幼い	3
年配	3	面白い	2
頭	3	おとなしい	1
学生	3	小さい	1
小さい子	3	やすい	1
年寄り	3	大きい	1
おだやか	2	かわいらしい	1
		近い	1

表4 自由記述【眼鏡】

名詞		名詞	
語	出現数	語	出現数
真面目	59	スーツ	3
眼鏡	26	成人	3
頭	20		
大人	16	形容詞	
知的	10	語	出現数
老人	10	賢い	14
年配	7	悪い	11
老眼鏡	7	良い	8
年寄り	6	堅い	7
サラリーマン	5	堅苦しい	3
おじいちゃん	5	高い	3
フレーム	4	気難しい	3
印象	4	いい	2
おばあちゃん	4	細い	1
男性	4	おとなしい	1
頭の良さ	3	厚い	1
学校	3	厳しい	1
以上	3	りりしい	1
几帳面	3	弱い	1

表5 自由記述【メガネ】

名詞		名詞	
語	出現数	語	出現数
メガネ	57	サングラス	3
おしゃれ	43	ガリ勉	3
真面目	15		
普通	10	形容詞	
若者	8	語	出現数
フレーム	7	四角い	4
サラリーマン	7	チャライ	4
大人	7	悪い	3
インテリ	5	若い	2
知的	5	賢い	2
男性	5	かわいい	2
一般的	5	気難しい	1
一般人	4	かっこいい	1
スタイリッシュ	4	細長い	1
頭	4	堅い	1
若い人	3	細い	1
外国人	3	堅苦しい	1
仕事	3	弱い	1
女性	3	冷たい	1

般」「料理人」「オフィスレディ」「平均」「コナン」「ラフ」「和風」「誠実」「ガリ勉」「ドラえもん」などがあつた。自由記述の元データでは、〈百均グッズ（はなめがね）〉〈三角のメガネ〉も見られた。形容詞で15回出現している「悪い」について、元データに戻って参照したところ、「目が悪い／視力が悪い」という文脈での使用であつた。

【眼鏡】では、表4以外に、2回出現した語として「インテリ」「先生」「堅実」「ガリ勉」「学生」「高齢」「おじいさん」が見られた。1回出現した語としては、「40代」「30代」「青年」「年上」「ばあさん」「じいさん」「おじさん」「理知的」「物静か」「冷静沈着」「誠実」「文系」「理系」「エライ人」「高貴」「格式」「古風」「昔」「クラシック」「普通」「一般人」「ファッション」「ダンディ」「エリート」「ビジネス」「ビジネスマン」「キャリアウーマン」「警察官」「役場」「番頭」「医療器具」「近視」「国文学」「絵本作家」「教師」「学者」「作家」「秘書」「仕事」「ステンレス製」「丸眼鏡」「陰キャラ」などがあつた。ほかに、元データを参照すると、〈学校関係者や自分より立場が上の人〉〈金属フレームの眼鏡をかけている〉〈四角眼鏡〉〈融通がきかなそう〉〈日常的にかけてる人〉〈固い職業の人〉〈取引先の担当者など〉の記述があつた。〈増地ひとみさん〉（筆者の名）というものもあつた¹¹⁾。

【メガネ】では、表5以外で2回出現した語に「ビジネスマン」「コナン」「一般的」「子ども」「誠実」「個性」「四角」などがあつた。1回出現した語は、「少女」「男の子」「青年」「少年」「青少年」「高校生」「大学生」「学生」「10代後半」「20代後半」「60歳」「老人」「おじいちゃん」「おぢやめ」「ムードメーカー」「堅物」「軽薄」「神経質」「シャープ」「軽そう」「知性」「天才」「教育ママ」「外国」「外人」「イケメン」「ファッション」「スーツ」「一般男性」「お金持ち」「庶民」「広告」「芸能」「アーティスト」「キャリアウーマン」「読書好き」「会社」「会社員」「ナチの軍人」「委員長」「医者」「博士」「秘書」「銀行員」「芸人」「キャラクター」「マンガ」「ゲーム」「勉強」「街」「プラスチック」「グラスサン」「グルグルメガネ」「ダテメガネ」「ふちなし」「角ばつた」「洋風」「身内」「友人」「しょーちゃん」などである。〈ガリ勉〉〈とても真面目で四角いめがねをかけたイメージ〉との記述もあれば〈ふざけた感じの人〉〈ちょいチャライ〉というイメージをいだく人もおり、【メガネ】のイメージには大きな幅がある。〈冷たく、知性があふれる人。ナチの軍人のような男性的なイメージ。〉という、極めて限定されたイメージを記述する回答もあつた。

以上の記述は、そのまま先に提示したRQ1（現在の日本語使用者は、各表記からどのようなイメージを連想するのか）の答えである。回答者がイメージを描く際の切り口は、年代、職業、性格などさまざまであり、いずれの表記のイメージも多様多彩である¹²⁾。

3.2 各表記と強い関連のあるイメージは存在するか。存在するならば、どのようなイメージか（RQ2）

次に、RQ2（各表記と強い関連のあるイメージは存在するか。存在するならば、どのようなイメージか）について検討する。表3・4・5の語と出現数、また、3.1に挙げた各表記に対するイメージを記述した語群とを見ると、【めがね】【眼鏡】【メガネ】には各々強

い関連のあるイメージが存在すると考えられ、それは概ね以下のものである。

- ・【めがね】小学生くらいまでの子ども、優しくかわいらしいイメージ。
- ・【眼鏡】成人の中でも年齢の高い層（年配者）、とても真面目で知的、かたいイメージ。おしゃれではない。
- ・【メガネ】成人の中でも比較的年齢の低い層（働く世代）、おしゃれで少し軽いイメージ。

「真面目」はいずれの表記においても出現数が上位にあり、「めがね」という物品はどの文字種で書かれているかに関わりなく真面目なイメージと結びつくようである。中でも特に【眼鏡】において高頻度で出現している。

「おしゃれ」は【めがね】で11回、【メガネ】で43回出現しているのに対して、【眼鏡】では0回である。漢字表記の【眼鏡】は、おしゃれなイメージとは関連が薄いようである。

3.3 各表記のイメージに個人差はあるか（RQ3）

最後にRQ3（各表記のイメージに個人差はあるか）を見ていく。同一の回答者における、【めがね】【眼鏡】【メガネ】各々についての記述を一部抜粋して示す。以下の各表においては、「めがね」の表記を表3・4・5と同様に統一したほか、【まじめ】【真面目】【マジメ】を【真面目】に統一してある。

回答者によってイメージを表現する際の切り口（例えば年代、職業など）は多様である。それに伴い、記述内容にも個性が表れている。表6には、回答者がイメージを描く際の切り口が異なるものを抽出した。回答者4は、具体的な限定された職業のイメージを男女別に挙

表6 同一回答者における各表記のイメージ

回答者	【めがね】	【眼鏡】	【メガネ】	イメージの切り口
1	幼い子ども	成人	青少年	年代
2	幼児	30代以上の人	若い人	年代
3	子ども～中学生ぐらい 元気な感じ	老人 力が無い感じ	高校生～60才ぐらい 真面目な人、誠実そう。	年代+性格(性質)
4	男性：料理人、学生 女性：オフィスレディ、 学生	男性：国文学者、絵本 作家 女性：役場の人、教師	男性：委員長、博士 女性：秘書、銀行員	職業
5	受付嬢など、おとなしそ うな女性	物静かな青年	医者など、気難しそ うな男性	職業+性格
6	優しく真面目な人	冷静沈着で気難しい人	ムードメーカー	性格
7	三角のめがねをかけた人	丸い眼鏡をかけた人	四角のメガネをかけた 人	メガネの形
8	他人	取引先の担当者など	身内や友人など近い 人	人間関係の親疎
9	普通	あたまいい	天才	頭の良さ

げている。表6に挙げたような記述からは、イメージする際の切り口、観点にまず個人差がある様子がうかがえる。

次に、表7-1、7-2、7-3は、「特定のイメージを連想しない中立的な表記」（以下「基本表記」）が定まっていると考えられる回答者の記述を一部、抽出したものである。基本表記が同じである回答者の場合に、その他の表記から連想するイメージが同じなのか異なるのかを見るために抽出した。網掛け部分が、その表記が各回答者の基本表記であることを示し

表7-1 基本表記が【めがね】の回答者における、その他の表記におけるイメージ

回答者	【めがね】	【眼鏡】	【メガネ】
10	普通に目が悪い人	真面目そうな人、陰キャラ	なんかおしゃれでつけている人
11	普通の人	真面目な人	おもしろい人
12	普通のめがねの人	かたい人	おちゃらけてる人
13	普通	賢い	外国の人
14	普通	賢い	かわいい
15	一般的	頭がいい	かたくるしい
16	普通のめがね	頭良さそう	四角いメガネかけてそう
17	普通の人	賢そう、年配	男の人
18	一般的、平均的な人。	老眼鏡をかけたおばあちゃん。	スタイリッシュな感じのする男性。
19	視力が悪い	お年寄り	頭が良さそう
20	イメージできません	大人	子ども
21	ただめがねをかけた人	和製眼鏡をかけた人	スタイリッシュなメガネをかけた人

表7-2 基本表記が【眼鏡】の回答者における、その他の表記におけるイメージ

回答者	【めがね】	【眼鏡】	【メガネ】
22	子ども	目が悪い人	おしゃれメガネ
23	子ども いかにも勉強できそうな	普通の眼鏡をかけている人、一般人	おしゃれなメガネをかけている人をキャラクター的に説明している
24	サングラスなどをかけてる人	日常的にかけてる人	おしゃれのためにかけてる人
25	丸めがねをかけていそう	視力が悪そう	頭が良さそう
26	丸い形のめがねをかけているような人	ファッションとしてではなく、眼鏡が必要でかけているような人	細長い形のメガネをかけているような人
27	おシャレでかけている	眼が悪い人	真面目な人
28	愛嬌がある人。おしゃれアイテムとしてめがねを掛けている人。	目が悪いので、医療器具として眼鏡を利用している人。	冷たく、知性があふれる人。ナチの軍人のような男性的なイメージ。

表7-3 基本表記が【メガネ】の回答者における、その他の表記におけるイメージ

回答者	【めがね】	【眼鏡】	【メガネ】
29	おしゃれめがね	真面目そう	普通にメガネかけたひと
30	小学生	老人	一般人
31	子どもがかけている	高齢の人がかけている	誰でもかけている
32	子ども	作家	一般的な人
33	子どもが見て説明しているような、ふわっとした像が浮かぶ。	警察官が説明しているような、真面目な印象を受ける。	日常会話で用いられているような、一般人のイメージがある。
34	優しいめがねをかけた人。	融通がきかなそう。目が悪そう。	ただメガネをかけている人。
35	優しい印象のある人	知的な人	ただ単に視力が低い人
36	優しそう	おじいちゃんおばあちゃん	みんな
37	優しい人	厳しい人	特に特徴のない人
38	優しそう	こまかさう	普通の人
39	優しそう	あたま 良さそう	普通の人
40	物腰が柔らかい、優しい	しっかりもの、真面目	普通、特に特徴がない

ていると思われる記述である。基本表記が特定できる記述をしていた回答者は75名であった。内訳は、基本表記が【めがね】39名、【眼鏡】7名、【メガネ】29名である。

まず、表7-1は【めがね】が基本表記であると考えられる回答者の記述である。回答者10のように、【めがね】が基本表記である場合に【眼鏡】に真面目、【メガネ】におしゃれなイメージを記述した回答者は9名いた。ほかに、【めがね／眼鏡／メガネ】のイメージの組み合わせが11・12のように「(基本表記)／真面目・かたい／面白い・軽い」である回答者は5名いた。13～17のように、【めがね】が基本表記で【眼鏡】に「賢い・頭が良い」イメージをいいたく回答者は9名いたが、その場合の【メガネ】のイメージは回答者によりさまざまである。18～20のように、【眼鏡】は年齢層が高いとする回答者においても、【メガネ】のイメージに統一性はない。18と21は共に【メガネ】を〈スタイリッシュ〉としているが、【眼鏡】は〈老眼鏡をかけたおばあちゃん〉(和製眼鏡をかけた人)としている。

そして表7-2は、【眼鏡】が基本表記と考えられる回答者による回答である。ここでは【めがね】を子ども、【メガネ】をおしゃれ、とする点で2名(22・23)のイメージが概ね一致しているが、その他の回答はバリエーションに富む。25・26は【めがね】に丸い形という共通のイメージをいだいているが、【メガネ】から想起するイメージは異なる。【めがね】をおしゃれと考える回答者もあり(27・28)、これらの回答においては【メガネ】が真面目あるいは知性的なイメージとなっている。

【メガネ】が基本表記と考えられる回答者の記述は表7-3のとおりである。29のように【めがね】がおしゃれ、【眼鏡】が真面目なイメージとする回答者は4名存在した。30～33のよ

うに【めがね】は子どものイメージであるとする回答が7名において見られ、うち5名は30・31のように【眼鏡】に老人や年齢の高い大人のイメージをいだとしていた。他の2名の回答は、【眼鏡】を特定の職業と結びつけるものである(32・33)。34～40は【めがね】が優しく【メガネ】は基本表記という点で一致しているが、【眼鏡】のイメージは多様である。

本節の最後に「真面目」に関して見ておく。「真面目」は3.2で述べたように、【めがね】【眼鏡】【メガネ】のいずれの表記においても高頻度でイメージされる。【めがね】【眼鏡】【メガネ】のいずれかを「真面目」と回答した回答者の自由記述を一部抜粋したのが表8である。41～43(【めがね】は真面目、【眼鏡】は老人)や49・50(【めがね】は優しい、【メガネ】は真面目)のように2種類の表記においてイメージに共通性が見出せる回答者も存在するが、それらの回答者が残りの1種類の表記(41～43の【メガネ】、49・50の【眼鏡】)に対して描出したイメージは、いずれも異なっている。

以上を踏まえ、RQ3(各表記のイメージに個人差はあるか)への答えとして、各表記のイメージには個人差があると言えるであろう。なお、本節で提示した表はRQ1(現在の日本語使用者は、各表記からどのようなイメージを連想するのか)への答えともなっている。

3.4 【めがね】【眼鏡】【メガネ】各々の意味について

本章で提示した調査結果を踏まえ、【めがね】【眼鏡】【メガネ】の各々に意味の違いが見られるのかどうか、つまりこれらが別語と認定されうるものか否かを検討する。

結論としては、【めがね】【眼鏡】【メガネ】の各々は、現状では別語と認定されうるもの

表8 「真面目」と感じる表記と、それ以外の表記のイメージ

回答者	【めがね】	【眼鏡】	【メガネ】
41	真面目そうな人	老人、気むずかしい人	若い人、おしゃれな人
42	真面目そうな人	おじいちゃん	普通の人
43	真面目	老人	サラリーマン
44	かわいい	真面目	スーツの人
45	おしゃれな人、年齢が若い人	真面目、年寄り	会社員、堅い感じ
46	幼い人	真面目な人	おしゃれな人
47	優しくそう	真面目そう	しっかりしてそう
48	雰囲気が柔らかそうな人	真面目そうな人	インテリな人
49	優しい	知的	真面目
50	優しい人	堅苦しい人	真面目な人
51	気さくでしたしみやすい、面白い人	かしこく、頭がよい人	堅苦しく、真面目でとっつきにくい人
52	丸いめがねをかけたイメージ	お年寄りで、老眼鏡などをかけたイメージ	とても真面目で四角いメガネをかけたイメージ
53	おシャレでかけている	眼が悪い人	真面目な人

とは言えない。【めがね】【眼鏡】【メガネ】という表記の違いによる辞書的な意味の変化や、特定の意味を付与された別語としての独立は、「めがね」という語に関しては見られなかったためである。3.2で示したように、各表記には強い関連のあるイメージが存在する。しかし、3.1、3.3で見た記述内容からもわかるとおり、【めがね】【眼鏡】【メガネ】という表記の違いは「視力を調整・矯正するための器具」という辞書的な「めがね」の意味を変化させるものではない。また、【めがね】【眼鏡】【メガネ】は、イメージから来る限定された意味範囲、例えば「特定の年代の人がかけるメガネ」「特定の職業の人がかけるメガネ」等の、特定の意味範囲を分け持つ別語として独立しているわけでもない。「めがね」は生熊（2009）が示したような「表記による意味の独立」が起きていない語であり、3種類の文字種で表現されることによって広範囲で多様なイメージ、すなわち表記感の違いを、それを見た受け手にもたらず「同音訓・異表記・同義語」であると結論づけられる。

4. おわりに

本稿では、【めがね】【眼鏡】【メガネ】各々における表記感をアンケート調査によって明らかにした。受け手は【めがね】【眼鏡】【メガネ】に対し多種多様な表記感をいただき、そこには個人差も見られた。また、本稿では、【めがね】【眼鏡】【メガネ】各々に意味の違いが認められるか、つまり各々は別語と認定されるものか否かを検討した。結果、【めがね】【眼鏡】【メガネ】各々に辞書的な意味の面での違いは見られず、特定の意味範囲を分け持つ別語としての独立も認められなかった。よって、【めがね】【眼鏡】【メガネ】は表記感が異なるだけの「同音訓・異表記・同義語」であると結論づけた。

異なる文字種で表記された一つの語に対して受け手がいさぐ表記感を、具体的に実証した研究は少ない。その一端を示し得たことが本稿の成果である。しかし、本稿で取り上げることができたのはわずかに一語のみである。コンテキストに関係なくカタカナ表記が用いられるとして増地（2018）で示した語群は、ほかにも存在する。【ケガ】【セリフ】【マンガ】などである。これらについても、異なる文字種で表記された場合の表記感が異なるのかどうかを明らかにしていく必要があるであろう。今後の課題としたい。

注

- (1) 以下、【 】は【 】内の文字種を使用して表記されていることを示す。
- (2) 先行研究については増地（2019a）で詳しく述べた。
- (3) 増地（2013a・2013b・2015）にて、コンテキストが非外来語がカタカナで表記される要因の一つであることを指摘した。例えば【カンタン】や【キミ】は、カジュアルなコンテキストでは使用されるが、改まったコンテキストでは使用されにくい。【カンタン】【キミ】の出現にあたっては、コンテキストが要因の一つとなっていることがわかる。
- (4) 「同音訓・異表記・異義語」は同音訓異義語の一種ということになる。同音訓異義語は、「同音訓異字」であること、つまり漢字が異なる語であることが前提となっているが、「異字」は一般的には漢字の異なりを指すため、文字種の異なりを表すべく「異表記」と明示した。
- (5) 日本語非母語話者を対象とした日本語教育においては、非外来語がカタカナで表記される現象につ

- いて十分には扱われていないとされる。しかし筆者が増地（2017）において考察したとおり、日本語教育で非外来語のカタカナ表記を扱うことには、生活面・学習面での意義が認められる。日常的で使用頻度の高い語「めがね」を取り上げた本稿の調査結果も、日本語教育に資するものであると考える。
- (6) 本調査は、愛知淑徳大学人間情報学部倫理審査委員会の承認（2018年7月5日付、2018-007）を受けて実施した。
 - (7) 社会人は愛知淑徳大学の教職員と筆者の知人等である。調査協力者は全員が日本語を母語とする。
 - (8) 他の調査項目に関する結果は、増地（2019b）でその一部を示した。その他の項目についても、別稿にて報告していく予定である。
 - (9) 4名の回答における表現は少しずつ異なっており、〈めがねをかけている人〉〈めがねをかけてる人〉〈メガネをかけた人〉〈めがねをかけてる〉各1名である。
 - (10) <https://textmining.userlocal.jp/>（2019年9月1日現在）
 - (11) 筆者は、黒縁の、四角に近い形のメガネを掛けている。
 - (12) なお、今回の調査において、RQ1～3のいずれに関しても大学生と社会人との間に自由記述内容の顕著な差は認められなかった。

参考文献

- 生熊愛（2009）「表記による意味の独立—語幹がカタカナ表記される動詞の傾向」『国文目白』48、pp.左45-左31
- 浮田潤・杉島一郎・皆川直凡・井上道雄・賀集寛（1996）『日本語の表記形態に関する心理学的研究』心理学モノグラフNo25、日本心理学会モノグラフ研究会
- 笹原宏之（2011）『漢字の現在—リアルな文字生活と日本語』三省堂
- 杉島一郎・賀集寛（1997）「表記形態が単語のイメージの鮮明性に及ぼす影響」『人文論究』46（4）、pp.63-86
- 林巨樹（1982）「日本語の語彙の表記」『日本語の語彙の特色 講座日本語の語彙2』明治書院、pp.179-200
- 増地ひとみ（2013a）「Eメールにおける文字種の選択—非標準的な表記の背後に働く語用論的要素」『待遇コミュニケーション研究』10、pp.120-136
- 増地ひとみ（2013b）「テレビ番組の文字情報における文字種の選択—番組のジャンルと語用論的要素に注目して」『早稲田日本語研究』22、pp.24-35
- 増地ひとみ（2015）「テレビCMの文字情報における文字種の選択—CMのジャンルと語用論的要素に注目して」『早稲田日本語研究』24、pp.13-24
- 増地ひとみ（2017）「日本語教育で《非標準的なカタカナ表記》と《文字種選択の仕組み》を扱う意義—交通広告における調査結果を例に」『日本語／日本語教育研究』8、ココ出版、pp.123-138
- 増地ひとみ（2018）「学術雑誌におけるカタカナの役割と使用実態—カタカナ表記で出現する語とコンテキストとの関連」『国文学研究』184集、pp.105-91
- 増地ひとみ（2019a）「非外来語のカタカナ表記」研究の現状と今後の展望」『愛知淑徳大学論集 文学部篇』44、pp.143-159
- 増地ひとみ（2019b）「オノマトペを表現する文字種の選択要因—「キンキン」と「ふわふわ」をめぐる」『愛知淑徳大学論集 創造表現学部篇』9、pp.33-47
- 李曉娜（2010）「「切れる」と「キレル」に関するマインドマップ調査について」『山口国文』33、pp.84-69

付記

本稿は、早稲田大学日本語学会2018年度後期研究発表会（2018年12月8日）における発表の一部である。また、本稿は、愛知淑徳大学の特定課題研究助成「非外来語のカタカナ表記に関する意識調査」（平成30年度）、「学術的な文章における非外来語のカタカナ表記—実態調査と出現要因の検討」（2019年度）の成果の一部である。